

消費者ネットワーク

2007年4月1日

第118号

全国消費者団体連絡会
発行責任者 神田敏子

TEL : 03-5216-6024

FAX : 03-5216-6036



消団連とこのごろ



ようやく桜が咲いた。

今年は冬が異常に暖かかったため、開花が相当早まるのではないかと大きな期待をさせた。桜の開花時期がいつも話題に上り、春の早い訪れを感じさせうきうきさせた。気象庁の当初の開花予報もそれに拍車をかけ、各地の桜祭りは例年より早めに企画された。しかし、その予報された時期が近づいても桜の蕾はかたく、一向に咲く気配がなかった。桜祭りの準備が整った頃、「データ入力にミスがあり予報が不正確だった」と、気象庁が深々と頭を下げた。

祭りを準備した人たちはかなりがっかりしただろう。しかし街行く人たちは案外冷静だった。「見れば分かるじゃん、まだ咲くわけないでしょ」と、TVインタビューに応えた男性の言葉が、コンピュータより人の目の方が確かだといわんばかりで印象的だった。やはり、あまりコンピュータに頼りすぎず、もっとおおらかに、人の目で観察しながら開花時期を予想するほうが、楽しいのかもしれない。

ところで、桜はただ暖かければ早く咲くのだろうか。今回の経験からすると、それだけではなさそうだ。冬のきびしい寒さが必要かも知れないし、もしかしたら今年は冬が暖かすぎたために、むしろ遅れ気味になったのかも知れない。例えば、彼岸花の例がおもしろい。どんなに夏が暑かろうと、冷夏といわれるほど涼しかろうと、必ずお彼岸に花を咲かせる。暑いか寒いかで開花時期を決めているのではないようだ。日照時間等その他の条件もきっとあるのだろう。桜の開花条件について本当のところは分からないが、このように色々考え、想像すると面白い。桜の性格を正しく知り、必要な条件を加味した上で予報をしなければ、正確さに欠けるだろうし、思わぬ落とし穴にも落ち兼ねない。今回はそういう教訓を得たような気がする。

大騒ぎをしたものの、結局開花は例年並みとなった。やはり桜はこの時期が似合う。あまりにも開花時期が異常では、花の下でおいしいお酒も飲めないだろうから・・・。

もくじ

消団連とこのごろ	・・・p.1
「都道府県における消費者行政を考えるシンポジウム」 開催しました	・・・p.2
「トレーサビリティ・システム」 構築にむけての取り組みが進んでいます	・・・p.5
製品安全関連報告	・・・p.7
国際消費者機構(CI)からの情報	・・・p.8
会員団体活動紹介・活動予定	・・・p.10
お知らせ・編集後記	・・・p.12